

## 【鳥インフルエンザ関係府省庁連絡会議幹事会】

- ・ 日程 10月28日（金） 16：30～17：00
- ・ 議題 岡山県及び北海道の家きんにおける鳥インフルエンザの疑似患畜の発生を踏まえた今後の対応について
- ・ 出席府省庁  
内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、消防庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、中小企業庁、国土交通省、環境省、防衛省、内閣官房

(鳥インフルエンザ事案)

総理指示

- 家きん業者に対し、厳重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- 現場の情報をしっかり収集すること。
- 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認されたことから、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

# 高病原性鳥インフルエンザ発生状況について

農林水産省

令和4年10月28日

1	高病原性鳥インフルエンザとは	…	1
2	高病原性鳥インフルエンザの発生事例について	…	2
3	防疫措置状況	…	3
4	過去の発生事例	…	4
5	韓国における高病原性鳥インフルエンザの発生状況	…	5
6	欧州における高病原性鳥インフルエンザの発生状況	…	6
7	北米における高病原性鳥インフルエンザの発生状況	…	7
8	輸出への影響	…	8

# 1 高病原性鳥インフルエンザとは

## (1) 原因（病原体）

○ I Eが作成した診断基準により高病原性鳥インフルエンザウイルスと判定されたA型インフルエンザウイルス

元気消失



## (2) 対象家きん

鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥 及び七面鳥

## (3) 症状・特徴

元気消失、食餌や飲水量の減少、産卵率の低下、顔の腫れ、トサカや脚の変色(紫色)、咳、鼻水、下痢。

急性例ではこれらの症状を認めず、急死する場合もある。

※人獣共通感染症：海外では、家きん等との密接接触に起因する高病原性鳥インフルエンザウイルスの人の感染及び死亡事例も報告。

## (4) 発生状況

渡り鳥により国内に持ち込まれることが多く、冬期に発生しやすい。我が国において、直近では、平成26、28、29、令和2、3年度に発生。

※内閣府食品安全委員会によると、「我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザがヒトに感染する可能性はないと考える」としている。

## 2 高病原性鳥インフルエンザの発生事例について

### (1)国内1例目の概要 (H5亜型)

①場所・飼養規模 : **岡山県倉敷市**の養鶏場(採卵鶏)、**約17.0万羽**

②周辺農場 : 3km圏内 2戸・25.5万羽 、 3km-10km圏内 6戸・86.4万羽 、 合計 8戸・111.9万羽

③発生経緯

・10月27日(木)、養鶏場で鶏の死亡が増加したことを受け、岡山県家畜保健衛生所が簡易検査を実施した結果、同日16時05分、簡易検査陽性と判明。

・同家畜保健衛生所がPCR検査を実施し、国による確認の結果、**28日(金)7時00分に疑似患畜と確定**。

### (2)国内2例目の概要 (H5亜型)

①場所・飼養規模 : **北海道厚真町**の養鶏場(肉用鶏)、**約17.0万羽**

②周辺農場 : 3km圏内 2戸・32.3万羽 、 3km-10km圏内 6戸・38.2万羽 、 合計 8戸・70.4万羽

③発生経緯

・10月27日(木)、養鶏場で鶏の死亡が増加したことを受け、北海道家畜保健衛生所が簡易検査を実施した結果、同日18時00分、簡易検査陽性と判明。

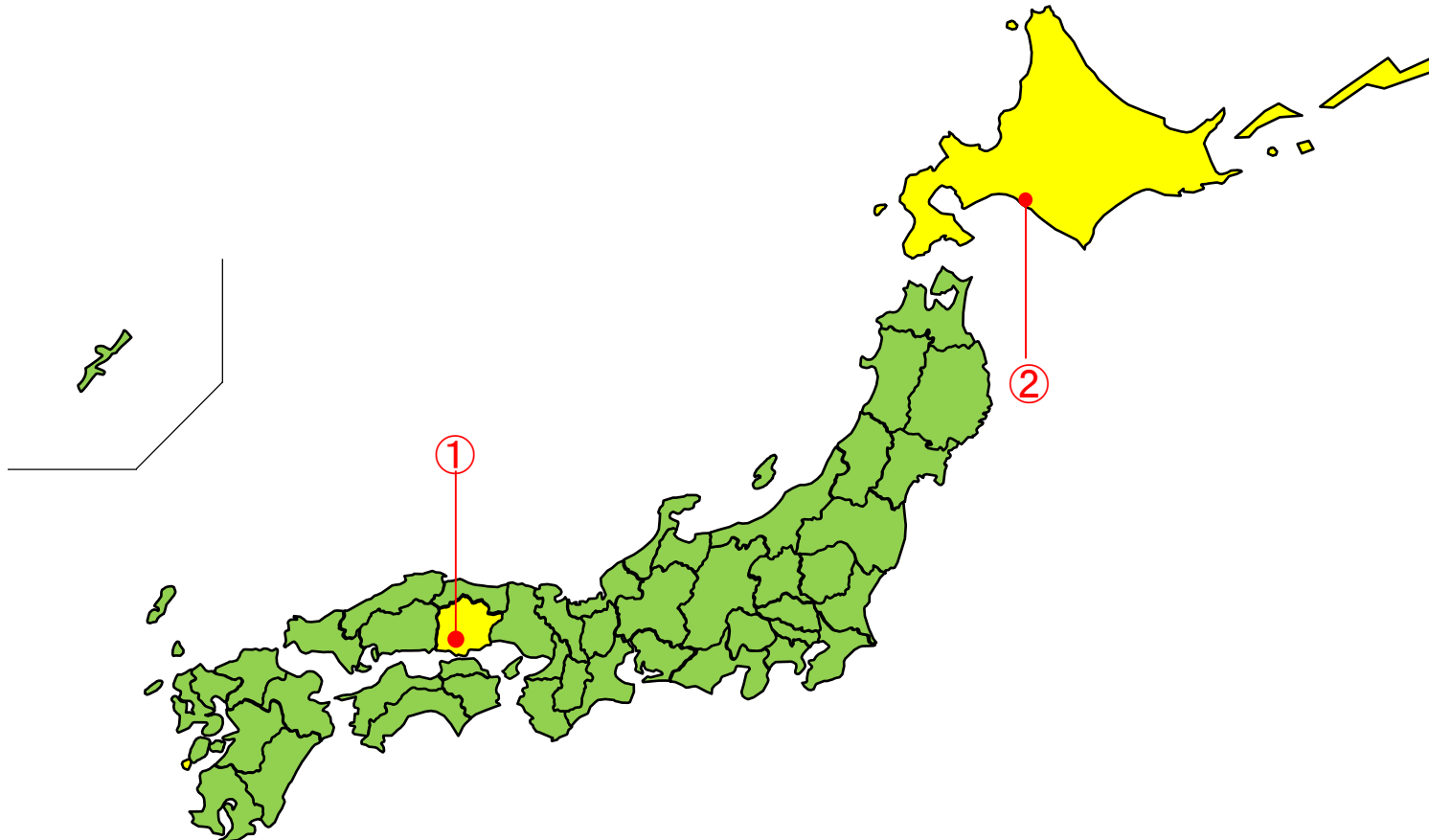
・同家畜保健衛生所がPCR検査を実施し、国による検査の結果、**28日(金)10時00分に疑似患畜と確定**。

# 3 高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況

令和4年10月28日 10時30分現在

事例数：2事例（防疫措置対象：2農場 0施設 約34.0万羽）				農林水産省 対策本部	防疫対応状況(予定は最短の場合)					
発生場所		発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3		措置完了日(0日目)		10日目	～	21日目	
					防疫措置 (殺処分、消毒等) 開始	完了	清浄性 確認検査	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除	
①	岡山 1	養鶏場 (岡山県倉敷市)	令和4年 10月28日	約17.0万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	10月27日	10月28日 7時00分	-	-	-	-
②	北海道 1	養鶏場 (北海道厚真町)	令和4年 10月28日	約17.0万羽 (肉用鶏・平飼い)	10月28日	10月28日 10時30分	-	-	-	-

※1 疑似患者と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患者確認時の羽数  
 ※3 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。



# 4 過去の発生事例～近年の高病原性鳥インフルエンザの発生とその対応

## ＜平成15年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

1～3月…3府県4事例 約27万羽（山口県、大分県、京都府）  
 （※我が国で79年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザの発生）

## ＜平成18年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

1～2月…2県4事例 約16万羽（宮崎県、岡山県）

## ＜平成22年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

11～3月…9県24事例 約183万羽（島根県、宮崎県、鹿児島県、愛知県、大分県、三重県、奈良県、和歌山県、千葉県）

## ＜平成26年度の発生＞ H5N8亜型（高病原性）

4月…1県1事例 約10万羽（熊本県）  
 12～1月…4県5事例 約35万羽（宮崎県、山口県、岡山県、佐賀県）

## ＜平成28年度の発生＞ H5N6亜型（高病原性）

11～3月…9道県12事例 約166万羽（青森県、新潟県、北海道、宮崎県、熊本県、岐阜県、佐賀県、宮城県、千葉県）

## ＜平成29年度の発生＞ H5N6亜型（高病原性）

平成30年1月…1県1事例 約9.1万羽（香川県）

## ＜令和2年度の発生＞ H5N8亜型（高病原性）

11～3月…18県52事例 約987万羽（香川県、福岡県、兵庫県、宮崎県、奈良県、広島県、大分県、和歌山県、岡山県、滋賀県、高知県、徳島県、千葉県、岐阜県、鹿児島県、富山県、茨城県、栃木県）

## ＜令和3年度の発生＞ H5N1亜型／H5N8亜型（高病原性）

11～5月…12道県25事例 約189万羽（秋田県、鹿児島県、兵庫県、熊本県、千葉県、埼玉県、広島県、青森県、愛媛県、岩手県、宮城県、北海道）

## ＜平成17年度の発生＞ H5N2亜型（低病原性）

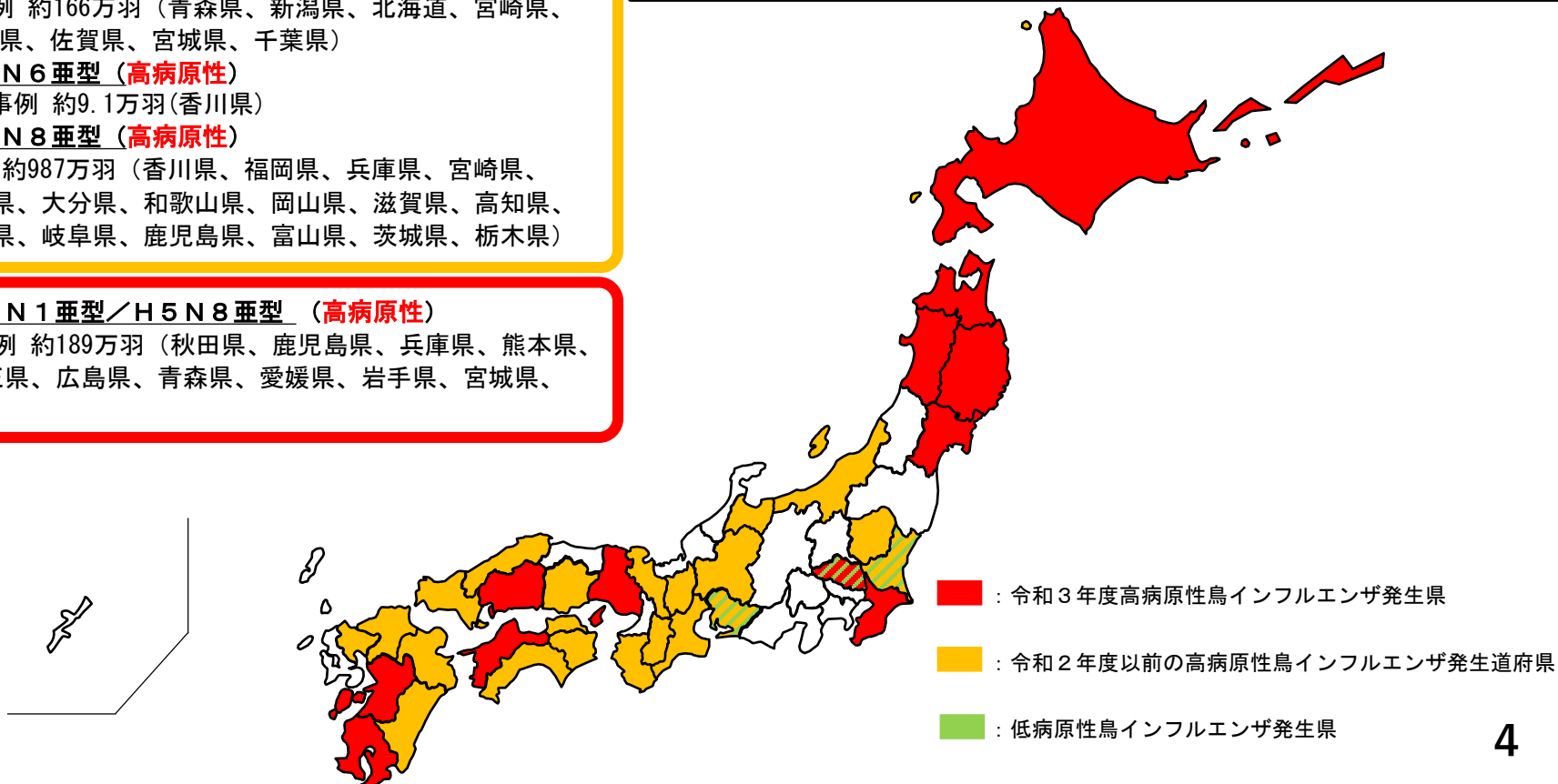
6～12月…2県41事例 約578万羽（茨城県、埼玉県）

## ＜平成20年度の発生＞ H7N6亜型（低病原性）

2～3月…1県7事例（うずら） 約160万羽（愛知県）

## ※野鳥における発生（高病原性）

- ・平成20年 全3県
- ・平成22～23年 全16県  
 （他3県における動物園等の飼育鳥からウイルスを確認）
- ・平成26～27年 全6県12例（H5N8型）
- ・平成28～29年 全22都道府県 218例（H5N6型）
- ・平成29～30年 全3都県45例（H5N6型）
- ・令和2～3年 全18道県58例（H5N8型）
- ・令和3～4年 全8道府県107例（H5N1型/ H5N8型）

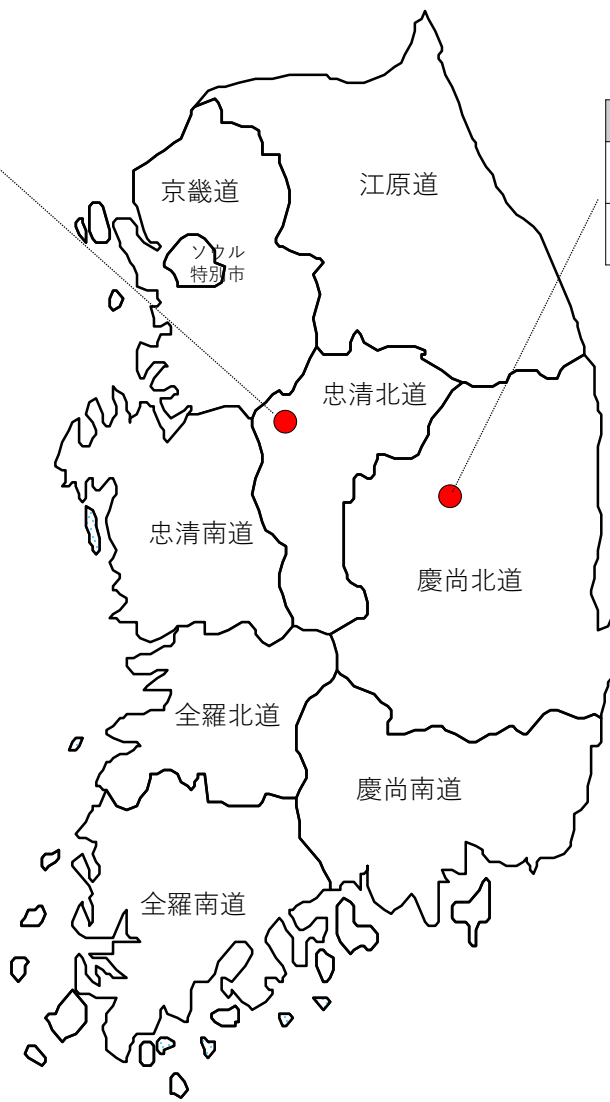




## 5 韓国の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況（2022年10月以降）

忠清北道			
2022.10.26	鎮川郡	H5N1	肉用アヒル

慶尚北道			
2022.10.17	醴泉郡	H5N1	種アヒル
2022.10.21	醴泉郡	H5N1	肉用種鶏



2022年10月27日時点  
農林水産省動物衛生課

出典：韓国農林畜産食品部  
※日付は症状が確認された日または検体採取日

济州道

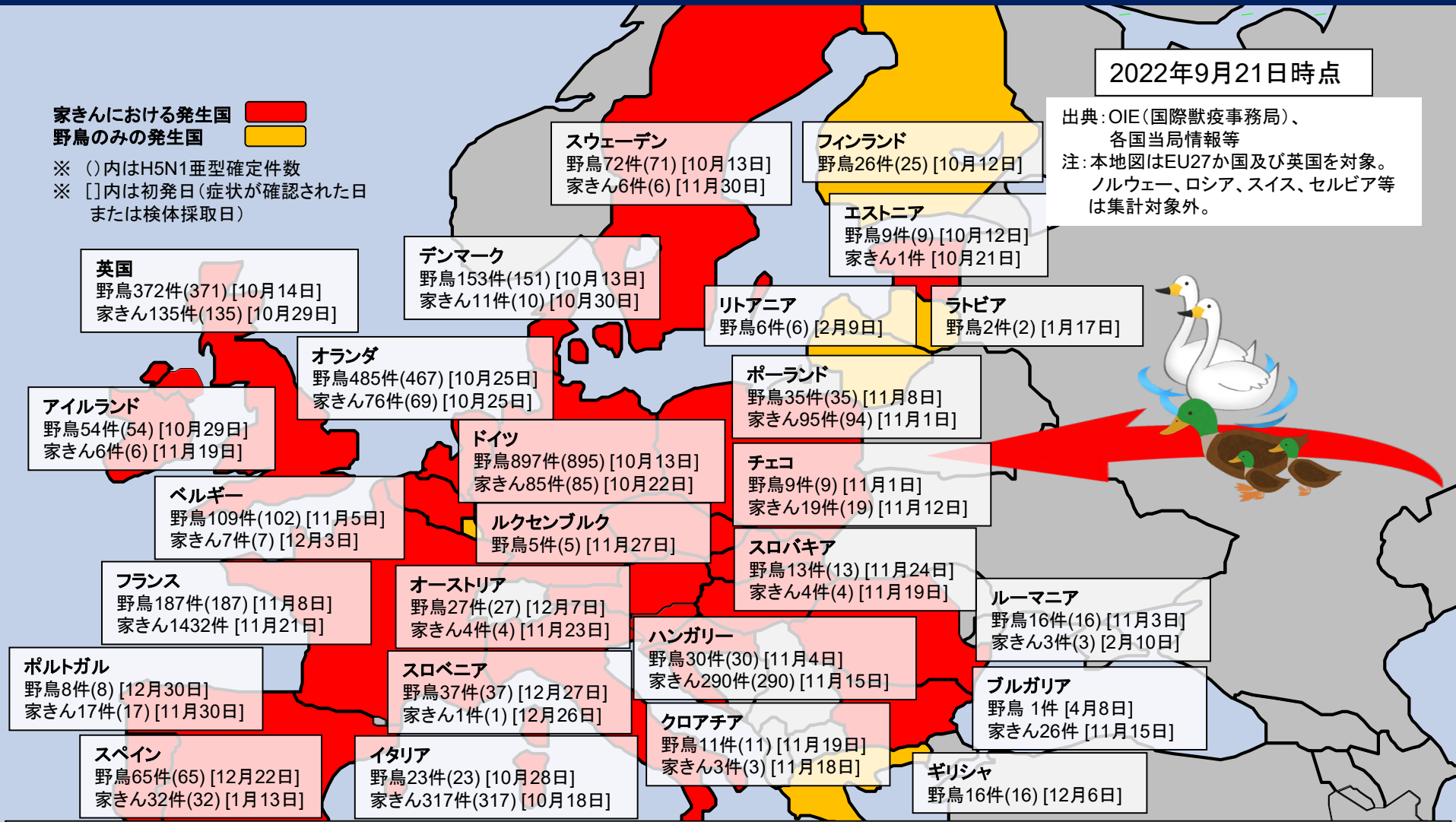
# 6 欧州における高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年10月以降)

2022年9月21日時点

出典: OIE(国際獣疫事務局)、  
各国当局情報等  
注: 本地図はEU27か国及び英国を対象。  
ノルウェー、ロシア、スイス、セルビア等  
は集計対象外。

家きんにおける発生国 ■  
野鳥のみの発生国 ■

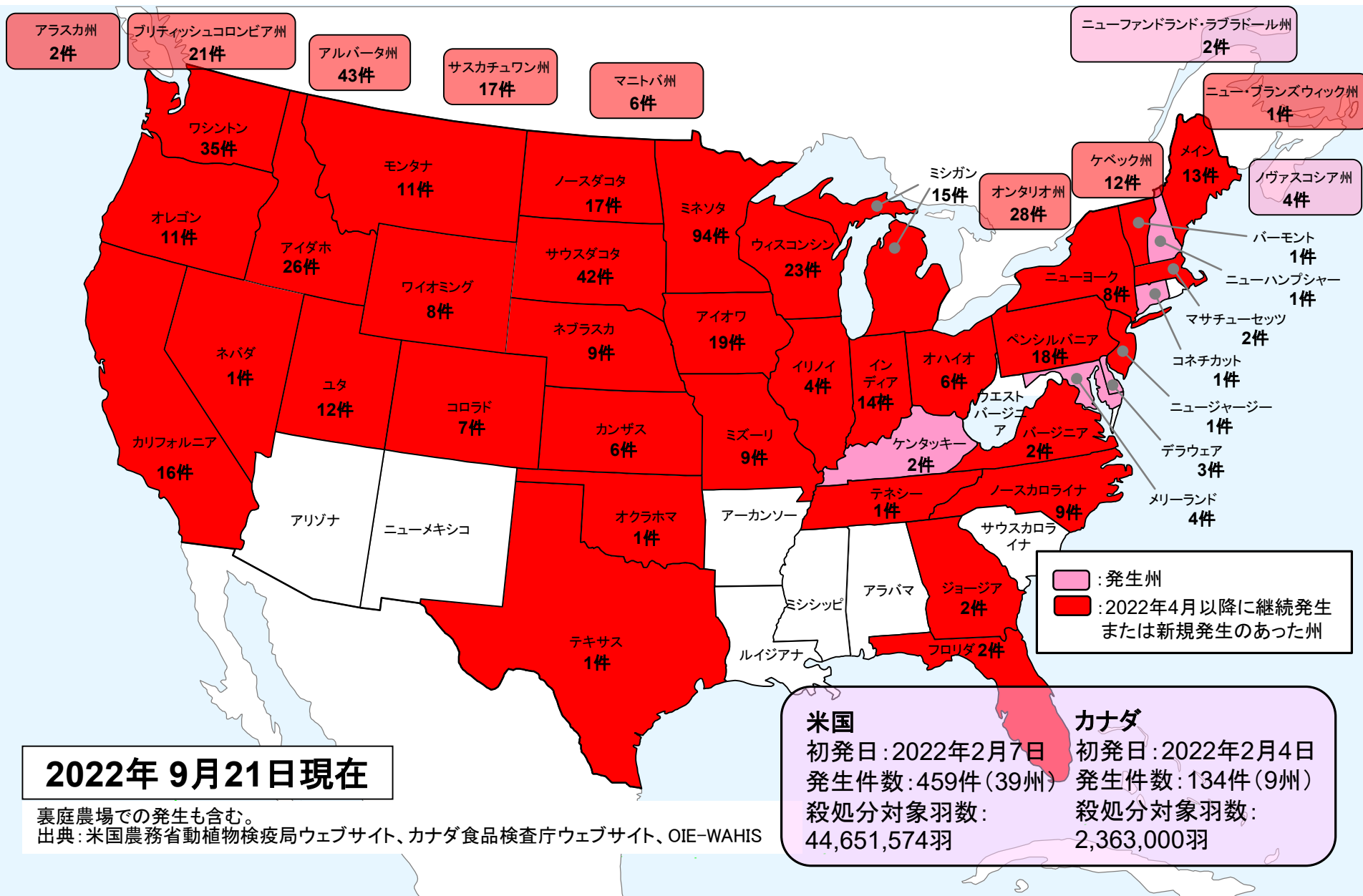
※ ( )内はH5N1亜型確定件数  
※ [ ]内は初発日(症状が確認された日  
または検体採取日)



**【今シーズンの発生に関するFAO(国連食糧農業機関)の見解】**  
 ヨーロッパ西部で渡り鳥にH5亜型のHPAIが確認されており、渡り鳥の飛行ルート上にある国では侵入リスクが高い。  
 9月中旬にロシア南東部の野鳥からH5N1 HPAIが検出されたのを皮切りに、ウイルスが西方に移動していることが報告されている。

**【今シーズンの発生に関するEC(欧州委員会)の見解】**  
 夏にロシアのカザフスタン国境付近の野鳥及び家きんにおいてH5N1 HPAIが発生。  
 9月末にチェコで確認されたH5N1ウイルスは、2021年の春から夏に欧州で確認されたH5N1ウイルスとは異なる遺伝子型であった。

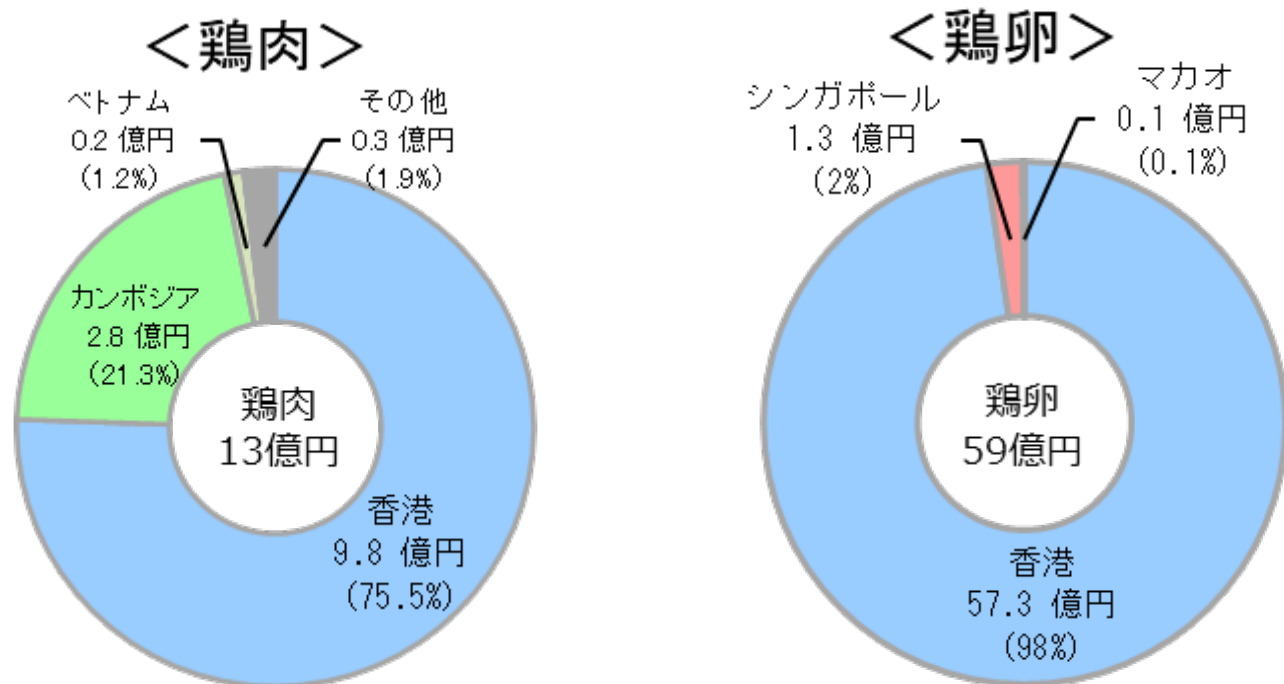
# 7 北米の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年10月以降)



## 8 輸出への影響

- 1 高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認された場合、同日から、日本全国の家きん肉及び卵に対する輸出検疫証明書の交付を一時停止。
- 2 速やかに輸出相手国との協議を開始し、非発生県からの輸出の継続及び防疫措置が完了した県からの輸出再開を実現する。

【参考：鶏肉及び鶏卵の輸出実績(2021年)について】



令和4年10月28日

家きんにおける高病原性鳥インフルエンザ疑い事例に係る  
環境省の対応について

環境省自然環境局

1. 岡山県の養鶏場（倉敷市）における高病原性鳥インフルエンザの疑い事例への環境省の対応は、以下のとおり。
  - 発生農場周辺半径 10km を「野鳥監視重点区域」に指定し、岡山県に野鳥の監視を強化するよう要請。
  - 中国四国地方環境事務所に岡山県と連携し、現地周辺の野鳥に関する情報収集を行うよう指示。
  - 岡山県と調整の上、野鳥での感染状況の把握等を目的とした鳥類相等の調査を実施予定。
2. 北海道の養鶏場（厚真町）における高病原性鳥インフルエンザの疑い事例への環境省の対応は、以下のとおり。
  - 発生農場周辺半径 10km を「野鳥監視重点区域」に指定し、北海道に野鳥の監視を強化するよう要請。
  - 北海道地方環境事務所に北海道と連携し、現地周辺の野鳥に関する情報収集を行うよう指示。
  - 北海道と調整の上、野鳥での感染状況の把握等を目的とした鳥類相等の調査を実施予定。

（表1）国内における家きんでの発生を受けた野鳥監視の指定状況

例数	場所		野鳥監視重点区域	
	都道府県	市町村	指定日	解除日
1	岡山県	倉敷市	10/28	※
2	北海道	厚真町	10/28	※

※防疫措置が完了した日の次の日を1日目として28日目の24時に解除

<野鳥等における取組>

- 冬鳥の渡来に合わせ、10月～翌年4月にかけて全国の渡来地で野鳥の糞便を採集するとともに、通年で死亡野鳥等から検体を採取し、鳥インフルエンザウイルスの保有状況に関する調査を実施（野鳥サーベイランス）。
- 国内の野鳥における今シーズンの発生状況は、表2のとおり。現時点で7例あり、H5N1亜型が確認されている。
- 国内の複数箇所で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されているため、野鳥サーベイランスにおける全国の対応レベルを最高レベルの「対応レベル3」として、野鳥の監視を強化中。
- 死亡野鳥、野鳥糞便、環境試料（水）及び家きんにおいて高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された各地点の周辺半径10km圏内を「野鳥監視重点区域」に指定。同区域内では野鳥での感染状況の把握等を目的とした鳥類相等の調査等を実施し、野鳥の監視を強化。

（表2）国内の野鳥における今シーズンの発生状況

例数	回収/採取日	場所		検体情報			亜型	野鳥監視重点区域	
		都道府県	市町村	検体の種類	種名	回収羽数		指定日	解除日
1	9/25	神奈川県	伊勢原市	死亡野鳥	ハヤブサ	1	H5N1 高病原性	9/26	10/23 解除
2	10/4	宮城県	栗原市	死亡野鳥	マガン	1	H5N1 高病原性	10/4	11/11 予定
3	10/11	福井県	南越前町	死亡野鳥	ハヤブサ	1	H5 亜型高病原性	10/14	11/8 予定
4	10/8	北海道	野付郡別海町	野鳥糞便	ガンカモ類	-	H5 亜型高病原性	10/17	11/5 予定
5	10/14	宮城県	栗原市	死亡野鳥	マガン	1	H5 亜型高病原性	10/17	11/11 予定
6	10/16	新潟県	新潟市	衰弱野鳥	ハヤブサ	1	H5 亜型高病原性	10/16	11/18 予定
7	10/21	新潟県	聖籠町	死亡野鳥	ノスリ	1	H5 亜型高病原性	10/26	11/18 予定



(お知らせ)

※ 数値等は全て速報値のため、  
今後変更される可能性があります。

# 岡山県倉敷市における鳥インフルエンザ発生に係る災害派遣について

令和4年10月28日  
防衛省

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和4年10月27日（木）、岡山県倉敷市に所在する養鶏場（約17万羽）において鳥インフルエンザの疑いが発生し、翌日28日（金）、検査の結果、鳥インフルエンザ陽性が確定。</li> <li>○ 28日（金）0100、陸上自衛隊第13特科隊長（日本原駐屯地・岡山県勝田郡）は、岡山県知事から鶏の殺処分等の支援に係る災害派遣要請を受理。</li> <li>○ 同日0800より、陸上自衛隊第13特科隊を基幹とする対処部隊が殺処分等に係る支援を実施。</li> </ul>
活動部隊	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 陸上自衛隊 第13特科隊（日本原駐屯地）</li> </ul>
活動態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 約300名態勢（24時間態勢で、約17万羽のうち、約12万羽を実施。残り約5万羽は自治体を実施）</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鳥インフルエンザが発生した養鶏場における殺処分支援等</li> </ul>



【参考】兵庫県姫路市における鳥インフルエンザ発生に伴う災害派遣の活動状況 (令和3年12月17日～18日)

